

2010年度

鹿児島県児童クラブ連絡会 指導員研修会

# ～子どもの成長・発達とは 昔遊び講座～



- と き **2010年11月21日(日) 10:00(開演)～16:00**
- ところ **阿久根市「西目地区構造改善センター」**  
(阿久根市西目2142-2 TEL0996-72-0709)
- 主 催 **鹿児島県児童クラブ連絡協議会**
- 日 程

■開会あいさつ	加来 宗暁(連絡会会長)	10:00～10:05
□ 子ども理解講座		10:05～12:30
○講 師:	米衛 政光さん(子ども家庭支援センター「みらい」園長)	
○演 題:	「気になる子ども」の発達の理解と指さし導き	
○講師プロフィール	元県立出水養護学校・鹿児島養護学校校長、社会福祉法人麦の芽福祉会常任理事、子ども家庭支援センターみらい園長、県通園事業連絡協議会副会長、鹿児島大学非常勤講師	
	<b>&lt; 昼 食 休 憩 &gt;</b>	12:30～13:30
□ 昔遊び講座		13:30～16:00
○講 師:	山本 清洋さん(「伝承遊びと創作遊び」を育てる会会長/鹿児島大学名誉教授)	
○演 題:	「遊びの支援～伝承遊びと創作遊び」 講座と遊びの実践ワークショップ	
○講師プロフィール	遊びとレクリエーション研究所・所長、鹿児島お手玉の会会長、鹿児島県レクリエーション協会常務理事、子どもの脳と心を守る会特別幹事、日本子ども社会学会評議員、日本レクリエーション協会福祉レク・ワーカー	
■閉会(連絡会事務局から署名のお願い)		16:00

## 「気になる子ども」の 発達の理解と指し導き



子ども家庭支援センターみらい  
米 衛 政 光

### 子ども家庭支援センターみらい 概要

- ・ 2008年4月に、社会福祉法人「麦の芽福祉会」の事業所として開所
- ・ PFI方式で建設
  
- ・ 0歳から3歳までの親子教室 35組
- ・ 障がい児学童保育 22人

◆ 発達の最も早い段階から、安心で健康的な生活と身近な人々との温かい交流を保障し、子どもの伸びようとする芽を大切に育みながら、花咲かせていくことを支えていく。

## 「気になる子ども」とは

～ どんな障がい、  
どう理解すればよいのか～

## LD（学習障害）とは

Learning Disabilities

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を示すものである。学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や環境的な要因が直接的な原因となるものではない。

## LDの支援のポイント

その子どもの認知特性や学習スタイルを配慮した指導を加えることが有効

- ・ 指示の出し方の工夫
- ・ 読むときの支援
- ・ 書くときの支援
- ・ 座席の位置の工夫
- ・ 手順やルールの表示の工夫 等

## ADHD（注意欠陥／多動性障害）とは

Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder

ADHDとは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び／又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。また、7歳以前に現れ、その状態が継続し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

### 不注意



- 学習で細かいところまで注意を払わなかったり不注意な間違いをする。
- 学習や遊びで注意を集中し続けることが難しい。
- 面と向かって話し掛けているのに聞いていないようにみえる。
- 指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げない。
- 学習や活動を順序立てて行うことが難しい。
- 集中して努力を続けなければならない学習や宿題を避ける。
- 学習や活動に必要なものをなくしてしまう。
- 気が散りやすい。
- 日々の活動で忘れっぽい。

### 多動性



- 手足をそわそわ動かしたり、着席していても、もじもじしたりする。
- 授業中や座っているべき時に席を離れてしまう。
- きちんとしておこななければならない時に、過度に走り回ったり、よじ登ったりする。
- 遊びや活動におとなしく参加することが難しい。
- じっとしていない。または駆り立てられるように活動する。
- 過度にしゃべる。

### 衝動性



- 質問が終わらないうちに出し抜けに答えてしまう。
- 順番を待つのが難しい。
- 他の人がしていることをさえぎったり、じゃましたりする。

### ADHDの支援のポイント

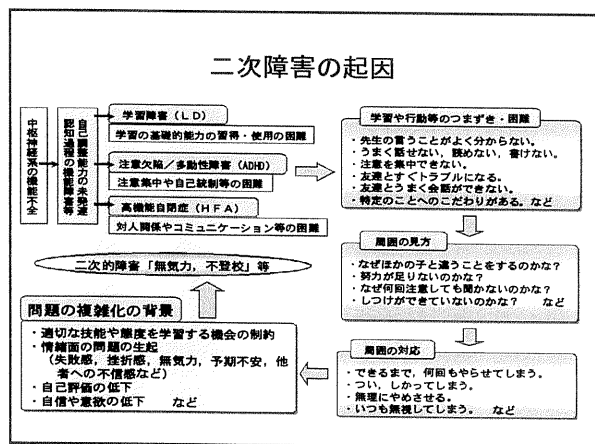
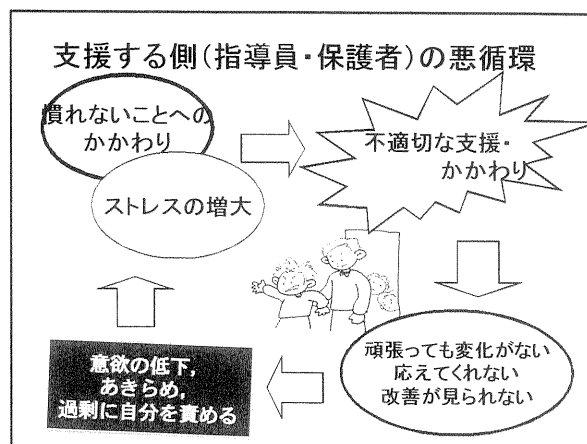
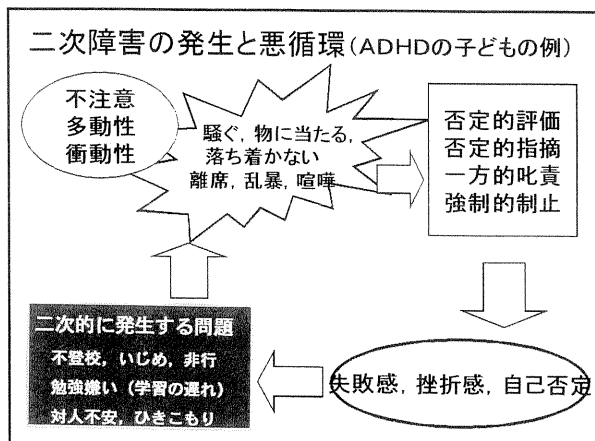
- 注意力への対処例
  - 注意が散漫にならないように邪魔な物は机や教室から除き、声のかけやすい席を配慮する
  - 単純明快で簡潔な指示を心がける
- 衝動性への対処例
  - 行動のルールを掲示し、守れたときは目をみてほめる
- 多動性への対処例
  - 多動性は無理に抑えようとせず約束の中で動ける場も作り、自己コントロール力を高める

### 高機能自閉症とは

高機能自閉症とは、3歳位までに現れ、  
 ①他人との社会的関係の形成の困難さ、  
 ②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいう。また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

### 高機能自閉症の支援のポイント

- 対人関係や社会性のスキルの向上
  - 小さな頃から人と付き合うときのコツや注意すべき言動を繰り返し具体的に教える
- 本人の理解できる言葉で会話する
  - 誤解なく伝わるような単語を使い、文を構成して会話する
- 視覚的な情報提示を活用する
  - 物事の関係性や抽象的な概念の説明には、図や絵を併用する
- 心理的な安定の得られる場所の確保



## 出会った子どもたちの エピソードから

～ 悩みを抱えながらも  
それでも未来に向かって生き続ける  
子どもたちから学べることは何か ～

### エピソード① 自分を低く評価する信也くんの背景

- 中学部になり、「ぼくは(友達より)できない」と不登校 チック・自傷を繰り返す自閉症の信也くん
- 相対評価を強める指導のなかで、自己を低く評価して自尊心を喪失
- 思春期は、大人になっていく自分を再構成することに不安を感じる時期
- 不安定な時期だからこそ、「共感的自己肯定感」を感じられる自分づくりが求められている。

### エピソード② 和哉くんの生の喜びを支えるもの

- 始業式の歌「ゆめわかば」への共感
- お母さんに「産んでくれてありがとう」の歌のメッセージ、そして、夏祭りのステージへ
- 懸命に生きる背景に、①親の無条件の支援②仲間を受け止められる経験③先生たちの肯定的な値打ち付け

## ゆめわかば

二本松はじめ  
小さな小さな森の中 やわらかな木もれ日ひとつ  
小さな小さな夢の種 ぐっすりたっぷり眠ってた  
小さな小さな夢の種 大地の栄養吸い込んで  
小さな小さな夢の芽が ほっこりにっこり顔出した

ぼくらは生まれてよかったよ  
ぼくらを生んでくれて ありがとう

小さな小さな夢の芽は あくびをしだりのびしたり  
小さな小さな夢の木に ゲンゲンドンドン伸びてきた  
小さな小さな夢の木は 楽しい小枝が増えてきて  
小さな小さな夢わかば あっちでこっちで歌ってる

ぼくらは生まれてよかったよ  
ぼくらを生んでくれて ありがとう

小さな小さな夢わかば  
おひさま浴びて 雨浴びて  
小さな小さな夢わかば  
しっかりとがり立っている  
小さな小さな夢わかば  
どんな花を咲かすのか  
小さな小さな夢わかば  
それはぼくらが決めていく  
ぼくらは生まれてよかったよ  
ぼくらを生んでくれて ありがとう

## エピソード③ 「小さな自分」を感じるみほさんに 育てたいもの

競争の多い運動会練習が始まったら、「小さい自分」を一層感じ始めて、弟をたたき始めた小1で発達障がいのみほさん



- 「わかる」「できる」ことを大切にしながらも、そのベースにある、「共感的自己肯定感」を育てることが求められている。

## 「競争的自己肯定感」と 「共感的自己肯定感」の違い

- 「競争的自己肯定感」は、競争に勝ち、他人より優れたところを持つことで保たれるもの（競争相手により変動する不安定さがある）。
- 「共感的自己肯定感」は、何もできなくても、自分がそこにおいてよいと感じられる、自己のかけがえのなさに基づくもの。

## わたしのめを さして

近藤 益男

わたしのめを さして これなあに と といえば  
おじちゃん という  
わたしのみみをつまんで これなあに と といえば  
おじちゃん という  
わたしのくちをおさえて これなあに と とうても  
やっぱり おじちゃん という  
そして ふと ちいさな こえて  
おじちゃん すきよ といった  
ああ わたしは しあわせ

うたう

近藤 益男

こんなに へたくそな わたしの オルガンでも  
 この子たちは うたう  
 そろわぬこえで うたう  
 わたしが ひきそこなっても  
 この子たちは まじめに うたう  
 この子たちは よきかな

子どもの内面世界に寄り添う  
 指導は大切にされているか

～ そもそも、「寄り添う」とは  
 どういうことか ～

実践現場における指導の問い直し

- 未だに、体で教えるというような「体罰まがい」の働きかけが残っていないか。
- 指導は「教える一従う」ということだととらえていないか。
- 障がい特性だけで理解し、対応していないか。
- 「できる」「分かる」といった能力だけを育てようとしていないか。自我、意欲、情緒といった内面に寄り添ったいるか。

専門性に係る社会情勢の変化

- 養護学校小学部在学中に自傷行為のために失明した自閉症の女性が、京都府に損害賠償を求めていた訴訟の控訴審判決で、大阪高裁は請求を棄却した京都地裁の一審判決を変更、府に6200万円の支払いを命じる判決を言い渡した。
- 裁判所は、「学校はカリキュラムを変更することで自傷が現れる可能性を低下させる措置を怠った」と認定した。
- 裁判長は、運動会練習やランニングなどが元生徒の大きなストレスになったと指摘。休み中は自傷行為が落ち着いていたことなどから、「不適切なカリキュラムへの参加を強制し、目への激しい自傷行為を誘発した」と因果関係を認めた。

内面世界に寄り添うとは①  
 子どもに尋ねる気持ちになる

<発達の後退を見せて甘えるさくらさんの場合>

- 母親は、兄の発達障がいの対応に追われて、家庭では十分に受け止めきれない状況。
- 「できるでしょう！」と強く迫る学校の担任の前では、「よい子」でいる。
- 「みらい」に来ると、自分でできることもスタッフの手を煩わせる。 ↓

大人を求めてやまない心」に寄り添う抱きしめ

内面世界へ寄り添うとは②  
 発達のどこかの段階にあるととらえる

<折り合いがつかず、自傷をするこうたくんの場合>

- 自我の充実の時期。自分のプランどおりにいかないと、パニック状態。 ↓

「間」のある働きかけ・選択的働きかけだけで折り合いを

- 「(立ち直るまで)待っているからね。」(間)
- 「もうすぐ～するからね。」(予告)
- 「AとBのどちらにするの？」(選択)
- 「～したかったんだね。でも～してからしようか」  
(受け止め→自制を促す誘い)

**内面世界に寄り添うとは③**  
**「問題行動」の中に発達要求を見つける**

<学校行事になると荒れる智子の場合>

- 運動会・学習発表会の時期になると自我が抑え込まれ、頻尿、破壊、不登校
- 「決定の一番手になりたい」という要求と抵抗の現れ

↓

- 山羊との遊びで「主人公になりたい心」をはぐくむ
- 育ってきている自己復元力・自制心を働かせるために「～したいんだね。でも～してから～しようか。」

**内面世界に寄り添うとは④**  
**活動と発達に向かう努力に共感する**

<担任の腕を紫のあざにするふみやくんの場合>

- 文雄が人をつまむのは、「やりたいーやれない」「できないーできない」という二人の自分で葛藤しているとき

↓

- 大人との信頼関係を基盤に支え⇒二分的評価を自ら克服へ
- 後・横からの介入⇒正面からの介入へ
- 「やりたいけれど、今やれないんだね。」というように、葛藤している内面を言葉にする働きかけ

**指導とは**

- 指導とは子どもの内面に介入し、子どもを意欲づけ、自己活動を引き起こし、そのことによって子どもを指さし導くこと。(黒田)
- 指導というのは「やる気にさせる」「誘う」といった非強制的な働きかけである。(岩垣)
- 子どもは「そうなれない(そうっていない)自分」と「そうありたい自分」の間で揺れている。子どもの中にある「否定」と「肯定」の間に介入していくのが「指導である。」(吉本)

**指導のワザⅠ**  
**まなざしと表情とからだによる語りかけ**

- ① 迫真性のある語りかけ  
漠然とでなく、真に迫り、身にかかるように
- ② 応答性のある語りかけ  
一方的でなく、反応を見届けながら応答的に
- ③ 要求性のある語りかけ  
弱い部分への共感と理解をしながら、「もう一人の自分」を要求していくように

**指導のワザⅡ-1**  
**絶えざる値打ちづけ**

- ① 過程としての評価活動  
できつつあることをその都度指さし評価
- ② 肯定としての評価活動  
起こしている行動を肯定的に評価
- ③ 発見としての評価活動  
小さな変化や前進を発見して評価

**指導のワザⅡ-2**  
**絶えざる値打ちづけ**

- ④ 願い＝課題としての評価活動  
指導者の願いとしていることを、子どもの行動の中に発見し、子どもの中に願いを育てるために評価
- ⑤ 達成感としての評価活動  
達成感、成就感を感じられるように評価

20101121 鹿児島県児童クラブ連絡協議会研修会 資料 於 西目地区構造改善センター

## 遊びの中で子どもはどのように育つか

山本清洋（鹿大名誉教授、遊びとレク研究所）

### 1 気になる幼児期・少年期の遊び世界

- 1 壊れゆく子どもの遊び世界、消えゆく子どもの遊び、ビー玉が消えた
- 2 スポーツ化する遊び、ゲームの台頭、遊び時間が消える、
- 3 冒険心の衰退、
- 4 大人社会の過介入、効率性と便益性の過偏重
- 5 科学的知と経験的知の乖離

### 2 遊び世界の崩壊の結果

#### 1) 遊びの世界のいろいろ

- 1 草滑り、急坂のやきいも
- 2 ビー玉、おはじき、お手玉、どろんこ遊び
- 3 影踏み、色つき鬼、ケンパー
- 4 手つなぎ鬼、かごめかごめ
- 5 木登り、自然遊び、草木遊び

#### 2) 遊び世界の科学

- 1 バランスの良い身体を養う
- 2 指の細やかな動きを養う。指の受容器が発達する。
- 3 身体を素早く動かす敏捷性を養う。
- 4 動きに合わせて動く協調性を養う。
- 5 バランスの良い動きと身体をつくる。

#### 3) 子どもが失うもの

- 1 身体を受容器から情報を得る能力が衰退し、身体操作能力が養われない。
- 2 文明技術を発達させてきた指先の機能が養われない。
- 3 総合的なバランスのとれた身体の発達が損なわれる。
- 4 身体を通しての他の人との関係をつくる機会が失われる。
- 5 危険を克服する能力が育ちにくい。

### 3 豊かな身体の発達にはバランスのとれた生活が必要である。

- 1) 活動は昼、睡眠は夜の習慣を形成する。
- 2) 子どもだけで遊び世界が必要です。大人は、人、もの、ことの世界環境整備。
- 3) 幼少期、少年前期は様々なスポーツや遊びが必要です。
- 4) バランスのとれた食生活の保証。
- 5) 見立てを多く含んだ遊びの保証。（自発的なアイデア、仮説）

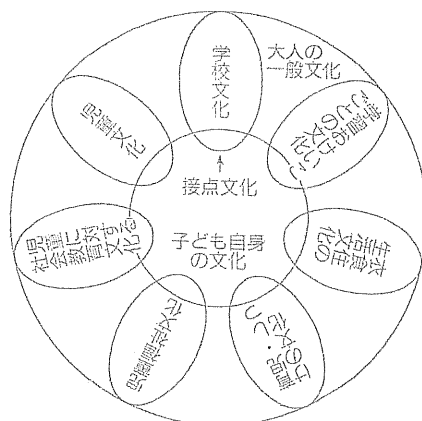


## 4 遊びの実際

### 1) 伝承遊びの世界 (図1)

身体によって表現される文化 (身体表現の文化)	手わざの遊び	手かけ絵、指あそび、指ずもう、腕ずもう、あやとり、手合わせ、指きり、指笛、じゃんけん、おなべく、クチンクチン、おふろ、手たたく、しっぺい、いちがさした、かこもこ(柳田)。	事物や生き物にかかわって表現される文化 (事物表現の文化)	道具や玩具を使う遊び	たこあげ、こままわし、輪まわし、日月ボール(拳玉)、ビー玉、めんこ、竹がえし、ねんがり(釘たて)、パチンコ、日光写真、いろはかるた、すごろく、花合わせ、まわり将棋、トランプ。
	演技の遊び	ごっこ遊びの類(ままごと、お店ごっこ、学校ごっこ、電車ごっこ、お医者さんごっこ、人形ごっこ、プロレスごっこ、戦争ごっこ、お母さんごっこ)。		手づくりの遊び	手づくりの玩具(紙玉鉄砲、竹とんぼ、松風ごま、弓矢)、草花の遊び(ササ舟、草笛、草人形、麦わら細工、食べる遊び)、折り紙、石や砂の遊び。
	運動の遊び (ルールを伴う)	おにごっこ、かくれんぼ、かんけり、駆逐水雷、天下町人、ワンパン野球(三角ベース)、探偵ごっこ、Sけん(けんけんずもう)、陣とり、さざえさん、石けり(けんば)。		生きものにかかわる遊び	セミとり、トンボとり、蛙とり、魚とり、小鳥とり、クモの遊び、地蜂とり、カツムリの競争、クワガタムシのけんか、トカゲのけんか、なんなんなーせー。

言語によって表現される文化 (言語表現の文化)	遊びの唄	まりつき唄、お手玉唄、縄とび唄、手合わせ唄、しりとり唄、動植物の唄、天体気象の唄、ゲームの唄(かごめかごめ、花いちもんめ等)、おにきめ唄、問答唄、かえ唄、悪口唄(からかい唄)。
	唱えことば	早口ことば、呪文、語呂合わせ、なぞなぞ、しりとり、教えことば、悪口ことば、じゃんけんことば、ゲーム開始、一時中止、ゲームから抜ける時のことば。
	語りもの	おばけ話、学校怪談、笑い話、とんち話。
	文字・絵の遊び	文字絵、一筆描き、じゃんけん描き、字かくし、字当て。
	命名法	遊び名称、人物名称、動物名称、植物名称、事物名称。



☆20  
<子どもー大人>関係から見た社会の文化

### 2) 遊び指導の留意点

- (1) 四季に応じた遊びを行う。
- (2) 子どもの遊びで世界には大人は出来る限り入り込まない。
- (3) 支援をする大人自身が遊びに熱中する。
- (4) 四季に応じた遊びの中から、支援者は得意とする遊びの知識と技術を修得する。

### 3) 本日の遊びの世界

#### (1) 移動し運動量の多い遊び

- ①けんけんぱ一、②関所破り ③ 8の字長なわとこ

#### (2) 相手との触れ合いを核とした遊び

- ①はないちもんめ、②馬乗り

#### (3) 創造・遊びの実践が一体化した遊び

- ①紙トンボ、

#### (4) コミュニケーション能力を高めるお手玉遊び

##### ①複数で行うお手玉遊び

1 ゆずりわたし

2 お手玉交換

##### ② 方 法

- 1 「あんたがたどこさ」にあわせ、「さ」の時に  
お手玉を右（左）まわしにゆずり渡す。
- 2 相手と向かい合って、お手玉1個（2個）を  
交換する。最初は、1・2・3で、慣れてら、  
[さ]の時に交換する。

#### (4) - 2 <ゆずりわたし>や<交換>が成功する条件は何か？

- (1) 共感：互いにお手玉遊びをするという共感がある。
- (2) 意思：達成しようとする気持ちがある。
- (3) 思考：どうすれば成功するかを考える。  
①相手が取りやすいように。②互いのコースを考える。③お手玉は相手の心である。
- (4) 声：「はい」、「さん」などの声を添える。
- (5) ジェスチャー：失敗した時、成功した時の表情は、相手に「励まし」「喜び」「称賛」  
「笑い」の表情がよい。

#### (4) - 3 コミュニケーションとは？

##### 1) コミュニケーションに使われる要因

(1) 複数の人間が、感情、意思、情報などを、受け取り合うこと、あるいは、伝え合う  
ことをコミュニケーションと言う・

①言語と②非言語の両方が使用される。特に、非言語の表情、ボディアクション、記号  
(メールの♡等)は重要な働きをする。

##### 2) コミュニケーション能力とは？

コミュニケーションに必要な要因を駆使して相手に情報を伝え、また、相手の情報を  
受け取る能力を言う。一つの成功した経験が他の場面に転移するので、小さなことでも  
子どもの相手とうまく関係が持てている場面を見逃さない。

#### 3 お手玉遊びの特性とコミュニケーションの関係

動きを伴うお手玉遊びにコミュニケーションの原型が存在することを認識する。

「シャボン玉とんだ」の歌に合わせているんな

参考文献 トム・ソーヤーからの贈りもの1 山本清洋 玉川大学出版  
子どもとスポーツ：果敢なる警告 山本清洋 三考堂